

仮装行列が中央大学における代表的な学生行事だということ、意外に感じる方も多いのではないだろうか。仮装行列は、戦前からはじまり、戦中・戦後の中断期を経て、約50年も続いた伝統の学生行事なのである。今回は、そのはじまりからおわりまでを紹介したい。

仮装行列のはじまり

仮装行列が初めて確認できるのは、1913(大正2)年12月の中央大学運動会である。それまで相撲や綱引がおこなわれていた昼の休憩に、法科の「社会行列」、経済科の「ストライキ」、商科の「七福人」、柔道部の「五人男」が披露されて喝采をあげた。仮装行列は、運動会の余興としておこなわれるようになったのである。

1921(大正10)年には、法・経・商学部と予科ごとに1つの仮装行列とすることが決められ、それぞれ宣伝部・応援部に加えて仮装部を設け、準備万端整えて当日を迎えた。予科は「ダルマダグンス」、商学部は「吾人はパンを得んがために生活す」、経済学部は「最後の革命党」、法学部は「義士打入」を披露した。「義士打入」は、忠臣蔵の赤穂浪士に扮した学生が表門から太鼓を打ち鳴らして討ち入り、裏門から出てきた吉良家の家臣に扮した学生が応戦し、入り乱れて戦った末に吉良の首級をあげ、最後は全員で剣舞を踊って観衆を沸かせた。仮装行列は、中央大学独特の余興といわれ「対科レース」と並んで運動会の2大イベントとして人気を博していたのである。ところが、1932(昭和7)年に陸軍戸山学校競技場で開催される時に廃止されて、そのまま敗戦を迎えている。

受け継がれる仮装行列

戦後に再開された運動会(1953年以降は体育祭)では、仮装コンクールが開催された。1956(昭和31)年の仮装コンクールは、社会心理研究会「お祭り」、教育研究会「学生さまごま」、陸上競技部跳躍「ルンペン団」、とろつき投擲「わが学生時代」などが披露された。なかでも短距離の「つわもの共の若き日」は、幼稚園児の恰好をして手を取り合って歌を唄い喝采をあげた。戦後の仮装行列は、学部単位ではなく、研究会や陸上競技部などの団体単位でおこなわれたことが特徴といえる。ところが、1957(昭和32)年以降、人気の余興であった仮装行列は体育祭から姿を消している。

一方、1946(昭和21)年にはじまる戦後の大学祭は、1957年に「白門祭」と改称し、前夜祭を加えるなど盛大な大学祭にすることを企図していた。この新設される前夜祭のメインイベントに、体育祭でおこなわれていた仮装行列が選ばれたのである。駿河台校舎中庭での開会式が終了すると花火と風船が打ち上げられ、プラスバンドを先頭に正門を出発し、周

辺をまわって中庭に帰ってくる行程で、大名行列に扮した団体を含めて15団体が参加し、神田の沿道の人々に笑いをまきながら2時間ほどねり歩いた。しかし、先導するはずのプラスバンドが列の中ほどに入ったため一部の批判をあげ、翌年に改善を期するも、前年同様にプラスバンドが先導できず、進行の不備で出発できないなどの問題がおこってしまう。そのため、1959(昭和34)年には参加表明が2団体のみで開催中止になり、しばらく仮装行列はおこなわれなかった。

仮装行列のおわり

仮装行列が復活するのは、1962(昭和37)年の白門祭である。この年、白門祭はサークル以外の一般学生が休暇期間と捉えて参加していないことを克服するため、クラスやゼミ単位で一般学生が参加する全員参加の大学祭への改善を企図した。その一般学生の参加を促すイベントのひとつとして推されたのが仮装行列であった。

しかし、2か月前の時点で参加表明をしたのは、代々木学生寮の1団体のみで、開催すら危ぶまれる状態であった。ところが、1か月前には11団体が参加表明をし、無事に開催が決定した。参加団体は、観光事業研究会、カトリック研究会、朗吟会、クラス各1団体、代々木学生寮7団体であった。一般学生が団体であまり参加しない中、仮装行列の再開は1958(昭和33)年に円型寮の完成した代々木学生寮生の熱意が支えたのである。この時の仮装行列は、宣伝車を先頭に正門を出発し、御茶ノ水駅から神田すずらん通り、神保町をまわり正門に帰ってくるという行程で、神田の沿道は観衆で埋まり、交通規制の警官も出動するほどの盛り上がりを見せた。翌年には後楽園校舎の仮装行列も合流してねり歩くなど、今後の白門祭の名物の1つになるといわれていた。

しかし、遅くとも1967(昭和42)年には、プラスバンドを先頭にした白門祭パレードに代わっている。これは、一般学生が団体単位で参加しないことから仮装行列の開催が難しくなった一方で、人気のイベントとして周知されていた仮装行列を、個人単位で参加できて継続的に開催できるように白門祭パレードへと改編したのだと考えられる。仮装行列は、観衆には人気のイベントでありながらも、学生の変化とともに開催が難しくなり、学生行事としての役割をおえたのである。



体育祭仮装コンクール(1955年)



白門祭仮装行列(1957年)